

[実施レポート]

# 横浜 アートサイト 2011



～横浜で地域と共に活動するアートプロジェクト～

YOKOHAMA ART SITE 2011

## Contents

- P01 横浜アートサイトとは
- P02 横浜アートサイト2011のあゆみ
- 【参加11団体の活動】**
- P04 01 創造と森の声 2011 横浜の森美術展4  
\_ 緑区
- P05 02 さかえ de つながるアート2011  
\_ 栄区
- P06 03 第13回金沢文庫芸術祭  
「こどもの未来は地球の未来」  
\_ 金沢区
- P07 04 AOBA+ART2011  
「リトルパーマネント」-住宅街の“新しい常設”とは-  
\_ 青葉区
- P08 05 ほっとたつはな亭  
\_ 旭区
- P09 06 都筑アートプロジェクト2011  
ニュータウン・ドリーミング～遺跡とアート～  
\_ 都筑区
- P10 07 ホームステイ  
～アフリカからのお客さんプロジェクト～  
\_ 保土ヶ谷区
- P11 08 第2回寿灯祭  
つながる一釜石・みなとみらい・釜ヶ崎  
1,000のあかり  
\_ 中区
- P12 09 大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあと2011」  
～季節はめぐり 人はめぐり 光はめぐる～  
\_ 南区
- P13 10 ともだちの丘えんげきまつり  
\_ 港北区
- P14 11 こどもの創造性をアートでつなぐ  
コミュニティ・ミュージックプロジェクト2011  
\_ 南区
- P15 シンポジウム  
「横浜アートサイト2011 報告会」より

yokohama map&gt;&gt;



## 横浜アートサイトとは

### はじめに

近年、まちづくりや福祉など、さまざまな分野でアートを取り入れた活動がみられるようになりました。横浜アートサイトでは、アートの力で横浜の地域資源の魅力を引き出す活動や、「人」と「人」をつなぎ、コミュニティの活性化・課題解決を図るアート活動を支援しています。2011年度は11団体が、それぞれ独自のアプローチで活動を展開。多くの方が地域やコミュニティの魅力に触れ、各活動は、場に関わる人と人との関係性に様々な変化をもたらしました。この実施レポートを通して、各活動に共通する要素や取り組みなどから、新しい発見につながっていくことを期待します。

### 横浜アートサイト2011 公募概要

#### 募集内容

- ・美術、映像、音楽、舞台芸術などアートにかかわるものであればジャンルを問わない。
- ・地域の街並みや歴史、国際性など横浜の地域資源を積極的に活用して魅力を引き出すとともに、事業実施を通じてコミュニティの活性化を目指すもの。
- ・商店街、自治会等の組織や福祉施設、病院、学校等の施設において、美術、映像、音楽、舞台芸術などのアートを介して、地域福祉や環境問題等それぞれが抱える課題の解決やコミュニティの活性化に向けて取り組む公益的な事業。
- ・普段はアートに触れる機会の少ない方々も含め、アートを用いることによって、参加者全員に一体感を醸成することを目指すもの。

#### 事業実施時期

2011年4月1日(金)～12月31日(土)

#### 助成金額

概ね250,000円前後/件

#### 応募期間

2011年2月～3月4日(金) 締切(応募総数全22団体)

#### 選考方法

2011年3月、第一次選考の書類審査、第二次選考のヒアリングを経て、全11団体を採択。

#### 〈選考委員〉

芹沢高志(P3 art and environment エグゼクティブ・ディレクター)

桜井悦子(有限会社悦計画室 代表取締役)

菅原幸子(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ長)

※横浜アートサイトは、2006～2009年度「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」、2008年度～「横浜アートサイト連携事業」として実施された事業が、2011年度より「文化芸術による地域づくり事業『横浜アートサイト』」として統合された事業名です。

# 横浜アートサイト 2011のあゆみ

2011年度は、連携企画などを通して団体を越えた交流や連携が盛んに行われました。横浜アートサイトへの参加が、互いの活動を知り相互に発展する機会となりました。



## 4.24 (日) キックオフ・ミーティング

13時30分～16時  
会場：ヨコハマ創造都市センター3F  
全参加団体が参加。事務局から事業報告書、収支決算書の記入方法、スケジュールなどを説明。

Start!!

## 5.29 (日) 連携企画ミーティング

17時～20時 場所：アサバアートスクエア(金沢区)  
参加団体の連携と交流を深める連携企画を検討するため、ミーティングを開催。ほぼ全団体が出席した。活発で自由な意見が飛び交い、全体の広報につながる企画を行うことに決定。懇親会は金沢文庫芸術祭実行委員会がホストを務め、会場とフードを用意(会費制)。自由に歓談したり、参加者による演奏や舞が始まるなど、なごやかな雰囲気に包まれた。

ミーティング・懇親会：  
連携企画の打合せなどを行うため、各団体が任意でホストとなってゆるやかに開催。各事業のオープニングパーティーに併せて開催するなど、互いの活動や場を知る機会にもなった。



## 7月～12月 各参加団体への支援

- ・所管官庁との調整、開催に関する課題や質問等へのアドバイス、ヨコハマトリエンナーレ2011との広報連携などを実施。
- ・WEBサイト、共通チラシ(1万部)の作成、プレスリリース発行等全体の広報を実施。
- ・媒体掲載実績：フリーペーパー「ハマジン」、OPEN YOKOHAMA 2011 ガイドブック、tvk「ずばり横浜」、ヨコハマ・アートナビ、他



共通チラシ

報告会チラシ

webサイト



## 5月～6月 各団体個別ヒアリング

各団体の事業について、内容や収支、課題、希望する全体研修の内容についてヒアリング。



Workshop

## 7.24 (日) 研修「WEBサイトを使った広報について ソーシャルメディアを中心に」

11時～13時  
場所：ヨコハマ創造都市センター B1F  
講師：茂木隆宏 (NOGAN コンサルタント)  
ゲスト：高木美希 (横浜観光コンベンション・ビューロー 事業部 広報担当)  
facebook や twitter などを使った広報についてノウハウを学ぶ。



Exhibition

## 1.23 (月)～29 (日) 横浜アートサイト 2011 報告展

場所：ヨコハマ創造都市センター1F  
入場無料  
ブースごとに団体の活動報告を展示。



## 1.28 (土) 横浜アートサイト 2011 シンポジウム

14時～17時  
場所：ヨコハマ創造都市センター3F  
ゲスト：大澤寅雄 (ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室研究員)  
全11団体の活動報告とともに、各活動が地域やコミュニティにどのような変化をもたらしたのかディスカッション。  
17時30分～ 交流パーティー  
フード・デザイナー：Café & Dining SAKAE

Symposium



### 連携企画

参加団体同士の連携や交流を目的とした企画を募り、3つの企画を実施した。

#### ○アートサイト便り発行 (全2回)

各参加団体の生の声を届けるニュースレター。企画・取材・執筆・編集・デザイン・発送作業の全てを有志で手がけ、全2回発行。2011年10月(1万部)、2012年1月(8,000部)。



#### ○旅する壁企画

60cm四方のパネルで各団体の紹介をそれぞれが作成。各団体の事業開催会場で巡回展示。



#### ○twitter 横浜アートサイト共通アカウント (@Y\_Artsite) 開設

6月末から運用を開始。アカウントを各団体で共有し、それぞれの情報発信に活用。

### その他の連携

連携企画などをきっかけに、積極的な連携が展開された。

- 「さかえ de つながるアート」が「金沢文庫芸術祭」へ出展
- 「ホームステイ～アフリカからのお客さんプロジェクト～」のアーティストが「こどもの創造性をアートでつなぐ」に参加
- 「都筑アートプロジェクト2011」のアーティストが、「さかえ de つながるアートデイズ」に出展
- 「ホームステイ～アフリカからのお客さんプロジェクト～」の成果報告展覧会を、旭区地域生活支援拠点ほっとぽとと別館で開催
- 「ともだちの丘えんげきぶ」のアーティストが、大岡川アートプロジェクト「光のぶるむなあと2011」に出演

# 01

## 創造と森の声 2011 横浜の森美術展 4

### GROUP 創造と森の声



ダダン・クリスタント〈2本の木の対話〉

地域に残る森の存在を知ってもらうとともに、森とまち、地域をつなぐ新たな文化を創り出すことを目指した野外美術展。1997年から開始し、2006年から名称を変更して開催、4回目を迎えた。

作家が森で制作を開始する7月末より、プレイベントやワークショップを展開。8月14日の本展オープニングでは、レクチャー・ハイキングやコンサートを開催した。8月22日から9月3日には、「森とまちをつなぐ展覧会」として最寄駅周辺でのまち展示を併催。土日のアートツアーや、森の共同制作（森で織物、竹灯籠づくり）を行うなど、さまざまな方法で地域の中にある森へアプローチする。いつもと違う形で森と向き合うことで感じる自然の営み。私たちとの生命のつながりに思いを馳せ、地域の中で我々がどう生きていくのかを考えるきっかけとなっている。

#### 【イベント概要】

会期：2011/7/31（日）～9/25（日）

会場：横浜動物の森公園予定地 JR 横浜線、市営地下鉄中山駅周辺

来場者数：森のワークショップ（プレイベント含む）150名

森の美術展／1,000名、まち展示／10,000名

参加アーティスト：Dadang Christanto（ダダン・クリスタント）、Madan Lal（マダン・ラル）、Ri, Eung-Woo（リー・ウンウー）、Thomas May（トマス・マイ）、Kestutis Benedikas（ケスチュティス・ベネディカス）、天野彩、天野浩子、坂内美和子、田中清隆、宮崎広明、海老沢一仁、渡辺五大、吉川陽一郎、石黒和夫、YOKOHAMA BIG BAND、岩佐律子、デキシーパーン、クラウン☆ミーナ WSP

プレイベント：7/23（土）「つくろう！未来の森の動物たち」よこはま動物園ズーラシア

ワークショップ：7/30（土）、31（日）「飯面づくりに挑戦 !!」、8/6（土）「火おこし体験と夜の森」、8/13（土）「踊る木版リトグラフ」

イベント：制作期間 7/31（日）～8/13（土）

森の美術展 8/14（日）～9/25（日）

まち展示 8/21（日）～9/3（土）

8/6（土）「夜の森でバリダンス」

8/14（日）「オープニングコンサート」、8/27（土）「中山えきちかコンサート」

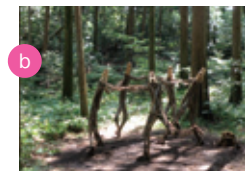
#### comment

#### GROUP 創造と森の声

事務局代表 石山克幸

今回の美術展は以前行ったものと比べても引けを取らない充実した内容となりました。ただ以前と違うことは、滞在制作する作家の宿舎をなかなか確保できなかったことです。各方面に相談しましたが、なかなか良い場所が見つからず、最終的には小さな私営アパート2つと食事場所として旧レストランを借りることとなりました。分散した場所での制作活動は移動時間だけでなく、作家やスタッフの交流機会にも多くの影響ができました。私たちの以前からの考えは、森に宿舎兼展示制作場所があれば、そこをセンターとした「アートの森」として多くの市民に活用されるのではないかとということです。地域の人々とアーティストとが一緒に創り上げていくアートの森を想像してみてください。大震災にゆれた私たちは、身の回りの自然や環境、地域とどのように付き合っていくのか、真剣に考えるべきときです。森の長年の活動もそろそろなか答えを見つけなければと、来年度に向け決意を新たにしました。

#### photo



a: ダダン・クリスタントとケスチュティス・ベネディカス  
b: 石黒和夫〈塔人間のダンス〉  
c: リー・ウンウー

主催：GROUP 創造と森の声

共催：横浜市緑区

助成：緑・芸術祭、芸術文化振興基金、神奈川県芸術文化団体助成、EU-ジャパンフェスト日本委員会

後援：横浜市文化観光局、横浜市環境創造局、横浜市教育委員会、横浜市旭区

協力：中山商店街協同組合、横浜市交通局、よこはま動物園ズーラシア、NPO 法人グリーンママ、

花いっぱい会、いはるびじゅつ、

ボイスカウト横浜第125団、ひのでや酒店、

ドルチェ、なごみ邸

問合せ：GROUP 創造と森の声

Tel / Fax 045-933-1460 Email morinokoe2@yahoo.co.jp

URL <http://www.morinokoe.jp>

## さかえ de つながるアート 2011

## さかえ de つながるアート

## 02

## comment

## さかえ de つながるアート

事務局 岩上百合子

つながるアート4年目の今年は、積み重ねてきた地域や施設との連携がさらに深まり、忙しいながらも充実した活動となりました。「栄区民文化センター リリス」の幼児向け造形ワークショップ事業を受託したり、関連プロジェクトが商店街や福祉事業所の協力を得ながら独立して動き出すなど、新たな方向への展開が見られました。2008年から継続してきた染色ワークショップの受講者から生まれた「工房・野楽ネットワーク」が、研究や技術を深める集団へと成長し、次世代へ草木染めを伝える活動やアーティストとしての作品展示を展開できたことは、大きな収穫です。新しい試みとしてスタートした「アート de カフェ」は、アートやコミュニティをテーマに感じたり考えたりしたことを語り合う場となり、さまざまな地域の人との出会いを生み、メンバー自身の振り返りや気づきの場となりました。(その中で生まれた企画「ちいさな哲学者たち」自主上映会を2月26日(日)に実施)

## photo



a: アート de キャラバン  
b: 草木染め「風のたより」  
c: 「秋をつかもう」子どもたちの作品

主催: さかえ de つながるアート  
共催: 栄区民文化センター リリス  
後援: 横浜市栄区  
協力: 栄図書館、小管ヶ谷地域ケアプラザ、  
さかえ地域通算プロジェクト・イタッチ、JCN横浜、  
(株)タウンニュース社、アート de つながるショップ振興会、  
さかえ egao プロジェクト、栄区商店街連合会 ほか

問合せ: さかえ de つながるアート事務局  
Tel 080-4150-2700 Email info@sakae-art.jp  
URL <http://www.sakae-art.jp>



さかえ de つながるアートデイズ

栄区で、まち・人・自然をつなぐ活動を行って4年目。2011年は、子どもを対象とした事業の中で、若いアーティストや大学生など新メンバーが活躍。また、「アート de スクール」から誕生した染色研究グループ「工房・野楽ネットワーク」が、運営スタッフとして参画し始めるなど、活動を担う層が拡大した。1年間の集大成となる「さかえ de つながるアートデイズ」では、活動の成果である作品を展示した「ギャラリーアート・わくわく」と、人と人との交流を生む空間「言の葉ちゃっとカフェ」を開催。前者では、さかえのまちをイメージしたインスタレーションの中でワークショップを実施し、そこで生まれた作品も次々と展示空間を彩った。後者では、「アート de カフェ」の取り組みの流れから「ちいさな哲学者たち」の映画を上映。来場者が出会い、語らう場を設けた。二つの空間は、「さかえ de つながるアート」が育んできた、人と人とのつながりを象徴するようなイベントとなった。

## 【イベント概要】

会期: 2011/5/22 (日) ~ 12/31 (土)

会場: さかえ福祉活動ホーム、栄区内の地域ケアプラザ6館、栄区民文化センター リリス、ふれあいショップ「さんぼみち」(栄公会堂地下1階カフェ)、あーすぶらざ など

来場者数: アート de スクール/合計 160名、アート de キャラバン/各回親子 20組  
アート de カフェ/各回約 10名、アートデイズ/来場者 350名

参加アーティスト: 鈴木雅子、松本光世、杉澤佑美、三縄公一+鎌倉女子大学音楽ゼミ、  
菊地びよ、岡部昭子、古田土照子、武知真美子、工房・野楽ネットワーク  
(栗原俊子・表具基子/ 稲村幸江、笹原紀子、高森早苗、田中英子、  
永田都、福田泉)、北川純、谷口小絵子、今井紀彰、卯月 ほか

イベント: 『アート de キャラバン』(共催: 栄区民文化センター「リリス」)

前期: 6月~7月全3回、後期: 10月~11月全3回

『アート de スクール』

5/22 (日) 「SAORIの世界」 さかえ福祉活動ホーム

6月~10月全4回「草木染め」小管ヶ谷地域ケアプラザ

『アート de カフェ』全3回

7/3 (日)、9/4 (日) さんぼみち、12/17 (土) 栄区民文化センター リリス

『さかえ de つながるアートデイズ』

12/17 (土)・18 (日) 栄区民文化センターリリス ギャラリーA ほか



# 03

## 第13回金沢文庫芸術祭「こどもの未来は地球の未来」

金沢文庫芸術祭実行委員会



文庫幼稚園の子どもたちが描いた大型絵画

交流・自然・発信・伝統・自己実現を理念とし、「こどもの未来は地球の未来」をテーマに全ての大人と子どもが生き生きと活動できる場を目指す。「1 Day イベント」では、海辺の開放的な空間を最大限に生かし、作品展示、歌や踊りのステージ、ワークショップなど110の出展者が集い、16,000人が集まる盛大なアートフェスティバルとなった。本年度は、子どもたちが主体となって活動する「虹の翼隊のヒミツきち」や「サンセットパレード」の他、東日本大震災被災地から始めた1枚の長い布に絵を描く「子どもアートリレー」やチャリティーなどを展開。「街角アートラリー」では、金沢区内の各所でアート作品の展示やコンサート、ワークショップなどを開催し、アーティストと地域の人々が交流した。アート活動を通して世代を超えた様々な人がゆるやかにつながり、互いに認め共感しあう場を育てている。

### 【イベント概要】

会期：2011/9/18（日）～ 11/20（日）

会場：金沢区・海の公園、アサバ・アートスクエア ほか

来場者数：1DAY イベント／16,000名、街角アートラリー／2,000名

参加アーティスト：ロコ・サトシ、100%パレード、矢澤珠美、カプリオル、

さかえ de つながるアート、宮下昌也、北山耕平 ほか

イベント：9/18（日）「1DAY イベント」

10/1（土）～ 11/15（火）「街角アートラリー」

11/20（日）ファイナルパーティー

主催：金沢文庫芸術祭実行委員会

共催：財団法人 横浜市緑の協会

協賛：浅葉デザイン教室、池川クリニック、(有)WIN、(株)エッチアルディ、大成整形外科クリニック、風美容院、カトリック金沢教会、金沢区三師会、金沢白百合幼稚園、(株)金沢臨海サービス、Café & Bar EN、金八家ラーメン、くま薬局、昭和精工(株)、zin ギター工房、セブンイレブン横浜寺前店、The Road & The Sky、(有)タッドライン、ダンデザイン、東光禅寺、ぼおぼ、浜坂医院、ふみくら茶屋、ホルベイン画材(株)、まいど金沢文庫店、(株)ミックコーポレーション、ミロール、むとう教材店、焼き鳥番長、山本助産院、横浜高等学校

後援：横浜市金沢区役所、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会、神奈川県教育委員会、横浜金沢観光協会、横浜商工会議所金沢支部、横浜金沢産業連絡協議会、神奈川新聞社、FMヨコハマ、TVK、JCN よこはま

問合せ：金沢文庫芸術祭実行委員会

Tel/Fax 045-788-9119 Email info@bunko-art.org

URL http://www.bunko-art.org

### comment

金沢文庫芸術祭実行委員会

コアスタッフ 井上えつこ

完全なボランティア集団である私たちの企画・活動内容は、その年のスタッフの個人的な仕事や家庭の状況によって、様々に変化します。去年はできたけれど今年はできなかったことがあり、またその逆もしかりです。でも、それが私たちの活動の魅力であり、思いもよらないものが生み出される原動力であると思っています。今年私たちは、2つの新しい企画を実現しました。一つは東日本大震災の被災地で、家も校舎も失った子どもたちと共に絵を描く、大型絵画ワークショップを行なったこと。それは「子どもアートリレー」として今も続いています。もう一つは、毎年大量のゴミに悩まされるフード広場に、リユース食器を導入したこと。課題は残りますが、ゴミが1/6に減ったのは予想以上の大きな成果でした。著名なアーティストを呼ぶことも必要だとは思っていますが、この芸術祭からアーティストが育っていく。そんな場を目指したいと日々模索しています。

### photo



a: オープニングセレモニー

b: 「虹の翼隊のヒミツきち」のワークショップ

c: サンセットパレード

## AOBA+ART2011

「リトルパーマネント」－住宅街の“新しい常設”とは－  
AOBA + ART2011 実行委員会

## 04

## comment

AOBA+ART 2011 実行委員会  
プロジェクトマネージャー 野見山 桜

2011年は日本にとって大きな変化の年となりました。住宅街という人々が生活する場所で展覧会を開催するAOBA+ARTとしても、変化の一年になりました。ディレクターやメンバーの交代からはじまり、コンセプト制の導入など運営・企画面ともに様々な挑戦をしました。こうした変化の中でも無事に開催できたのは、これまで築いてきた住民の皆様、そして協賛協力企業様・団体様との関係があったからだと痛感しています。「いつも通りのことをいつも通りにできる喜び」。アートに出来ることは、些細なことかもしれませんが。しかしアートによって生活の彩りを増すことはできるはず。今の我々に出来ることがあるとすれば、いつもとかわらぬAOBA+ARTの姿を見せること、そして今後も継続していくことなのだと思います。

## photo



a: 小林史子「家と家、人とお。つなぐ、むすぶ。」ワークショップ  
b: 池田光宏《Sweet Home Dining》  
c: AOBA + ART 特製手ぬぐい ©Fumiko Kobayashi

主催：AOBA+ART2011 実行委員会  
協賛：東京急行電鉄株式会社、東急電鉄 ア・ラ・イエ、  
東急電鉄 住まいと暮らしのコンシェルジュ、たまプラーザ テラス、  
横浜美術大学、川本歯科、美しが丘中央商店街、青葉区商店街連合会、  
イツ・コミュニケーションズ株式会社  
後援：横浜市文化観光局、横浜市青葉区、青葉区連合自治会長会、  
青葉区商店街連合会、横浜美術大学、美しが丘中部自治会、他

問合せ：AOBA+ART 事務局  
Email info@aobaart.com URL http://www.aobaart.com



岸本真之のつぎつぎきんつぎ

公園、住宅の玄関先や中庭、学校等、住宅街にある様々な場所を舞台に現代美術の展覧会を開催。本年度は「リトルパーマネント“新しい常設とは”」をコンセプトにすえ、会期終了後も街に作品を残すこと（常設化）を意識した制作を展開。9作家による作品展示やワークショップ、特別イベントとしてライブを実施。初年度から好評を得ている作品（池田光宏“Sweet Home Dining「青葉食堂」”：夕飯の献立を玄関先に展示する住民参加型作品）をきっかけに、今年も各作家が多様な視点から常設の可能性を探って作品を展開した。家庭で不要になった陶器を用いた作品をはじめ、いくつかの作品はコンセプト通り「常設作品の新しい形」が実現し、会期後の現在も住宅の玄関先などに見ることが出来る。作品を通して住民同士の会話が生まれ、地域に対する愛着やつながりを感じさせる機会となった。

## 【イベント概要】

会期：2011/10/1（土）～10/23（日）の土・日・祝日

会場：東急田園都市線たまプラーザ駅周辺や横浜市青葉区美しが丘2.3丁目を中心とした住宅街

来場者数：1,500名（うち、イベント、ワークショップ参加者400名）

参加アーティスト：池田光宏、ima、岸本真之、小林史子、谷山恭子、トーチカ、  
本間純、松原慈、水内貴英 ほか

## プレイベント：

7/30・31（土・日）、9/11（日）「手ぬぐいワークショップ」たまプラーザ商店街他

9/17日（土）トーチカ「PiKA PiKA WORKSHOP @ AOBA+ART2011」美しが丘小学校

## イベント：

10/1（土）「松原慈：セトクレアセアをつかったガーデニングワークショップ」

AOBA+ART インフォメーションセンター

10/8（土）「谷山恭子：“I'm here. ここにいるよ”ワークショップ」かえで幼稚園

10/10（月・祝）「小林史子：古着で繋げるAOBA+ART」美しが丘の公道

「アートフォーラムあざみ野 AOBA Stick」AOBA+ART インフォメーションセンター

10/23（日）「AOBA+ART2011 presents SPENCER（大谷友介／オオヤユウスケ）」

ミニライブ in 美しが丘中学校「美しが丘中学校丘小学校」



# 05

## ほっとたつはな亭

旭区地域生活支援拠点 ほっとぽっと



夢よ叫べ展

施設利用者や地域の人々が共に創り、楽しみ、障がいの有無や立場を越えた交流や理解が生まれることを目指して活動。アーティストによるコンサートでは様々なジャンルを紹介し、終演後のティータイムでは出演者も含めた交流を図った。ギャラリー展示では、商店街の協力を仰ぎ「はがきの中の美術館」を開催。障がいの有無に関わらずはがきサイズの作品を募集し、100点を展示した。また「夢よ叫べ展」では、精神疾患のある当事者にとって、希望を持ち、今を生きて明日を待つ、ということがどういふことなのか、に焦点を当てて企画。当事者自身が「夢」を表現した色紙作品約120点を地域施設と連携して巡回展として開催。来場者が自分の中に共鳴するものを作品の中に感じとったとき、障がいの有無を越えた人と人とが認め合う関係性について、感覚的に気づかされる展示となった。

### 【イベント概要】

会期：2011/4/1（金）～12/31（土）

会場：精神障害者地域生活支援センターほっとぽっと別館、地域活動支援センター「木楽舎」

来場者数：コンサート／87名（区民祭り除く）、語り／24名、展覧会／261名

参加アーティスト：米澤浩、熊沢栄利子、向田敏子、菅井晴美、ひさきさとみ、松井イチロー、植木啓示、横山貢介、小笠原伸子、中瀬香寿子、岡部由美子、高橋真理、広瀬愛、カルテット messo

イベント：6/22（水）「箏・尺八コンサート」

7/7（木）～9（土）「はがきの中の美術館」

8/25（木）「語り～声が運ぶ昔話～」

10/15（土）～19（水）（17日を除く）「夢よ叫べ展」

（ほっとぽっと別館のあと、鶴ヶ峰地域ケアプラザ、川井地域ケアプラザ、左近山地域ケアプラザを巡回）

10/16（日）「旭区民まつり特別企画 松井イチロー・ジャズコンサート」  
鶴ヶ峰公園

11/11（金）「フルート・ヴァイオリン・ピアノ クラシックコンサート」

12/14（水）「歌とピアノで楽しむクリスマス」

12/20（火）「弦楽四重奏コンサート」地域活動支援センター「木楽舎」

※記載のないものはほっとぽっと別館で開催

### comment

ほっとたつはな亭  
スタッフ 宮地博美

精神障害のある当事者が地域生活を行う中で、地域の方たちと同じ時間・空間を自然に共有できる場所として、また、地域の方が精神障害についての理解を深めるきっかけの場として、ほっとたつはな亭から文化活動を通した様々な発信をしました。その発信は、当事者、地域のボランティア、拠点職員が、立場の違いを超えてミーティングを定期的に行い、目的・意義も含めて話し合う過程で生まれたものです。コンサートは地域に定着し始め、リピーターもでき、普段着で音楽と会話を楽しんでいただけになってきました。ギャラリー「夢よ叫べ展」では、旭区内の精神科病院・精神障害関係施設などに、企画の説明と依頼をし、結果、たくさんの夢をのせた120点以上の作品が集まり、一堂に展示することができました。当事者が夢を語る等身大の存在として、地域の方々にも生き生きと映り、目に見えない心の交流も生まれた展覧会となりました。今後さらなる発信を続けていきたいと思えます。

### photo



a: 夢よ叫べ展  
b: 旭区民まつり  
区民ミュージカルの子どもたちと

主催：NPO 法人共に歩む市民の会、  
旭区地域生活支援拠点 ほっとぽっと  
後援：横浜市文化観光局  
協力：地域活動支援センター「木楽舎」

問合せ：旭区地域生活支援拠点 ほっとぽっと  
Tel 045-953-6727  
（火・水・木・土 10時～18時／金 13時～18時）  
URL [http://www.geocities.jp/hottopot\\_a/hottotop001.html](http://www.geocities.jp/hottopot_a/hottotop001.html)

## 都筑アートプロジェクト 2011 ニュータウン・ドリーミング～遺跡とアート～

## 06

## 都筑アートプロジェクト実行委員会

## comment

## 都筑アートプロジェクト実行委員会

実行委員長 木村 格

遺跡公園、都筑民家園を会場とした「都筑アートプロジェクト」は今年3回目の開催です。今回も歴史的な時間(古代から現代)とアートという切り口で、その場所性を生かした現代アート作品を展示することができました。また、アーティストによる地域に開かれたアートワークショップを継続、地元の小学校、中学校やドイツ学園の子供たちとも交流、確実に定着しつつあります。今年も地域のボランティアの方々の絶大なる協力を得てプロジェクトの運営ができました。都筑の地域力の大きさに感謝しています。都筑民家園の協力者グループや横浜市歴史博物館活動支援ボランティア、地元町内会、商業施設の方々など多くの方々のご支援が支えとなっています。今後も地域の方々と協力しながら、地域に根ざし、若い世代を中心に、多世代が楽しめる、都筑ならではのアート活動を継続したいと思います。

## photo



a: 開発好明「ドラゴンチェアの旅」  
ワークショップ  
b: 都筑アート茶会

主催: 都筑アートプロジェクト実行委員会、横浜市歴史博物館、  
NPO 法人都筑民家園管理運営委員会

共催: 横浜市都筑区

後援: 横浜市文化観光局

協賛: ノースポート・モール、ショッピングタウンあいたい、  
モザイクモール港北、ハウスクエア横浜

協力: 横浜市交通局、横浜市環境創造局、中川連合町内会、  
中川中央町内会、横浜市立中川小学校、横浜市立中川中学校、  
ドイツ学園、北山田こどもクラブ、e-プロジェクト KITA、  
大塚歳勝土遺跡公園愛護会、ヨコハマ・都筑ミュージカル委員会、  
都筑民家園協力者グループ(竹林クラブ、写真の会、茶道愛好会、  
おとなのおままごと)、横浜市歴史博物館活動支援ボランティア、  
センター北ハマロードサポーター、神奈川まちづかい塾都筑プロジェクト

問合せ: 都筑民家園

Tel 045-594-1723

URL <http://tminkaen.org> (都筑民家園) <http://tsuzukiartproject.org> (実行委員会)



鬼頭明稚 (81G84M80084II)

地域にある弥生時代の遺跡公園や、江戸中期文化遺産の古民家を舞台に、その魅力を引き出しながら古代から現代までの歴史的時間にイマジネーションを膨らませる現代美術展を開催。最寄駅の市営地下鉄センター北駅構内からノースポート・モール店内、歴史博物館エントランス外周及び歴史博物館屋上から大塚歳勝土遺跡公園、都筑民家園にわたる屋内外に15人のアーティストの作品を展開。最寄駅から美術展の会場へと作品の力で導く。主に彫刻、インスタレーション、絵画、パフォーマンスなどで古代遺跡、江戸古民家の場所性を活かした作品を展示。また、参加アーティストによるアートツアーや地域の子供たちを対象にしたワークショップなど、様々な企画で地域との交流を図った。アースカラーが広がる公園や古民家にヴィヴィッドな現代美術作品が出現することでできるギャップが、歴史的な時間軸を感じさせる機会を与えていた。

## 【イベント概要】

会期: 2011/10/17 (月) ~ 11/4 (金)

会場: 大塚歳勝土遺跡公園、横浜市歴史博物館、都筑民家園、横浜市立中川小学校、  
市営地下鉄センター北駅、ノースポート・モール ほか

来場者数: 展覧会/8,200名、ワークショップ/298名、イベント/319名、プレイベント/412名

参加アーティスト: 浅見和司、阿部剛士、今井紀彰、大谷俊一、岡典明、小笠原森、  
小野崎嶋、金井聡和、鬼頭明稚、齋藤正人、タムラタクミ、久村卓、  
松本力、山下若葉、山本千尋、開発好明、武藤亜希子 ほか

プレイベント: 9/16 (金) ~ 22 (木) 写真展「遺跡・民家園にモダンアートがやってきた日」  
都筑区総合庁舎 1F 区民ホール

9/11 (日) お月見ライブ「ハーブの調べ」 都筑民家園主屋

イベント: 10/22 (土) 「ドラゴンチェアの旅」歴史博物館プレハブ、大塚歳勝土遺跡公園

10/29 (土)、30 (日) 「アートツアー」

横浜市歴史博物館、大塚歳勝土遺跡公園、都筑民家園

10/29 (土) 「ライブパフォーマンス VOQ + 松本力 音楽とアニメーション映像」

都筑民家園主屋

11/3 (木・祝) 「アート茶会」 都筑民家園茶室 (輪亭)

10/29 (土) ~ 11/3 (木・祝) 「オモヤカフェ」 都筑民家園主屋

10/29 (土)、30 (日)、11/3 (木・祝) 「アートショップ」 都筑民家園主屋

# 07

## ホームステイ～アフリカからのお客さんプロジェクト～

### AfricArt design



タイエ・イダハルとイシワタマリ

日本とアフリカのアーティストが横浜市内の一般家庭にホームステイしながら共同作品制作を行う企画。第1回目の今年は横浜出身の美術作家イシワタマリの祖父母邸宅を舞台に展開した。9月末～11月は週末を中心に国内外から様々なゲストを家に招き、トークイベント、ワークショップ、音楽ライブなどを行う。12月にはナイジェリアからタイエ・イダハルを迎えイシワタマリとの2週間にわたる滞在制作を公開。出会うことのなかったであろう他者同士が「家」に居合わせるとき、「民家」を「異文化交流の場」として捉え直し、その可能性を提示した。なお、成果報告展覧会を横浜アートサイト2011参加団体の旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと別館にて実施し、「家」を再現した。

#### 【イベント概要】

会期：2011/9/29 (木)～12/31 (土)

会場：イシワタ邸、旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと別館 ほか

来場者数：イシワタ邸／125名、ほっとぽっと別館／25名

参加アーティスト：イシワタマリ、Taiye Idahor (タイエ・イダハル) ほか

プレイベント：【トークイベント】10/1 (土)、5 (水)、16 (日)、22 (土)、11/18 (金)、19 (土)

イシワタマリ×黒木皇／森下真樹 (ダンサー・振付家)／

磯島未来 (ダンサー・振付家)／エメカ・オグボウ (現代美術家、ナイジェリア出身)／

磯部浩司・美咲夫妻 (障害当事者団体「じりたま!」代表)／

西尾美也 (現代美術家、skype出演)

【作品上演】10/9 (日)『家族インタビュー』岸井大輔 (劇作家)

【ワークショップ】10/15 (土)、16 (日)、22 (土)、29 (土)

イシワタマリ／毛原大樹 (最後のテレビ)／岡本マサヒロ (闘う人類学者)

【音楽ライブ】10/29 (土)、11/6 (日)

まゆこけ (歌手)／アサダワタル (日常編集家)

【作品制作】

11/28 (月)～2012年3月現在継続中『GARDEN』岩井成昭 (美術家) ほか

イベント：タイエ・イダハル×イシワタマリ共同作品制作

【公開制作】12/10 (土)～18 (日)

【ワークショップ】

12/11 (日)、17 (土)、18 (日)『ステレオタイプな私たち (仮)』

【成果報告展覧会】

12/20 (火)～23 (金) 旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと別館にて ほか

#### comment

#### AfricArt design

主宰 黒木皇

日本とアフリカのアーティストがホームステイし一緒に作品を作る様子を公開することで特に立地がよいわけでもない丘の上に佇む民家を「異文化交流」の場として少しだけひらいていく試みでした。普通の一般住宅を使わせていただくわけですから、その家のご家族と真摯に向き合うことを一番に心がけました。12月に「アフリカからのお客さん」タイエ・イダハルを迎えるのに先駆け、まずは異なる他者同士が居合わせる空気を準備するべく、国内外のアーティスト、障がいのある方、人類学者など様々なゲストによるトークや音楽ライブを、約2ヶ月間ほぼ毎週末行いました。とても遠くにもしくはほんの身近に潜む「異文化」の存在に気付く、それらとの関係性について考える豊かな時間になりました。また、隣近所の方々との交流のかたちにも小さな小さな変化が見られたようです。今後も「家」「異文化交流」の組み合わせから様々な可能性を探っていきたいと思っています。

#### photo



a: アサダワタル・ディナーショーの様子  
b: タイエ・イシワタのお茶会ワークショップ  
c: 作品制作中のタイエ・イダハル



主催：AfricArt design

共催：イシワタビエンナーレ 2011

協力：イシワタ家の皆様、旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと

問合せ：AfricArt design

Email kohkuroki@gmail.com

URL <http://www.hoakyapt.com>

# 寿灯祭 第2回寿灯祭つながる—釜石・みなとみらい・釜ヶ崎 1000のあかり

## 寿オルタナティブ・ネットワーク

# 08

### comment

#### 寿オルタナティブ・ネットワーク

事務局スタッフ 橋本 誠

2回目となる今回は、期間を2日間に増やしてより多くの地域住人および、来訪者にお来しいただけるように心がけました。当初予定していた11月の実施が会場の都合で難しくなり、12月の寒空の中での実施となったことが悔やまれます。

内容としては、昨年度好評を得たワンカップ灯明を使用しながらも、釜石の竹とうろう、「寿お泊まりフォーラム」でつながりが深くなった大阪の釜ヶ崎や、BankART1929 企画による「新・港村」への参加を通して集めた灯絵を活用するなど、寿町エリア外とのつながりを意識した企画となりました。

当日の準備やパフォーマンスにも、普段から寿町で活動に取り組むアーティストや学生の方、それに常連参加して下さるようになった地域住人の方、そして寿灯祭をきっかけに来訪した方などに多く関わっていただくことができたので、このスタイルを今後も育てていきたいと思えます。



### photo



a: ワンカップ灯明  
b: 平魚泳と域住人による演奏  
c: 準備の様子

2010年にはじまった寿町のキャンドルナイト。寿の地域住人と寿で活動するアーティストが共につくりあげる、あかりのお祭りである。本年度は「つながり」をテーマとして、東日本大震災の被災地である岩手・釜石で「ありがとう」の気持ちを込めて制作された竹とうろうが登場。前回好評を博したワンカップ灯明は、寿町内で集められたカップ酒瓶に、みなとみらい「新・港村」と大阪・釜ヶ崎で描かれた灯絵を巻きつけて制作したものである。

また、寿灯祭会期前後にかけて会場周辺に「かまishi夢あかり」の竹で作られたあかりを設置。当日は、1,000のあかりがきらめく幻想的な風景の中、その空間を静かに盛り上げる音楽・ダンス・人形劇・絵のあぶり出しなどのパフォーマンスが行われた。準備のプロセスや当日のパフォーマンスでは、第1回と比べて地域住人の積極的な参加が増えてきている。

#### 【イベント概要】

会期：2011/12/16(金)～17(土)

会場：寿町総合労働福祉会館広場

来場者数：灯絵募集プログラム／約200名、寿灯祭／約300名

参加アーティスト：角館政英、ムダイ、平魚泳、高須賀千江子、

Marginal Comedy Goes to Your Town!、水川千春

プレイベント：11/5(土) 寿灯祭の準備をしよう ※第2回寿お泊まりフォーラム連携企画

12/3(土) 寿の灯籠作り ※カマン!メディアセンター(大阪)にて実施

イベント：12/16(金) コトブキツアー、12/17(土) 寿のしんちゃんツアー

主催：寿オルタナティブ・ネットワーク

共催：寿地区自治会

後援：横浜市文化観光局

協力：財団法人寿町労働者福祉協会、山多屋酒店、BankART1929、NOGAN、

NPO法人こえとことばとこころの部屋【ココレーム】

特別協力(かまishi竹取物語)：宝来館・NPO法人ねおす/伊藤聡、絆の街中野・緑が輪市/おこのみつくず編集部

照明プロデュース：ぼんぼり光環境計画/角館政英

設置デザイン：東京都市大学小林研究室 + 神奈川大学管我部研究室

問合せ：寿オルタナティブ・ネットワーク

Email info@koto-buki.info

URL <http://candle.koto-buki.info/>



## 09

大岡川アートプロジェクト  
「光のぷろむなあと」～季節はめぐり 人はめぐり 光はめぐる～  
大岡川アートプロジェクト実行委員会

第1回光のフォトコンテスト最優秀賞「最後の点灯」© 松山 進

川が流れる街の魅力を再発見し、地域住民の交流を促す、光・音楽・アート・食のイベント。中村敬による和紙行燈と、街を横切る首都高速橋桁への映像ライトアップで「光の回廊」を展開。首都高速橋桁への演出には中学生作品がモチーフにされた。蒔田公園内にはペットボトルを組み上げた「さくらツリー」が登場し、子どもたちが制作した回り灯籠150個、NPOらによる竹灯籠、匠による切り絵灯籠、中学生作品「どうぶつの森」などが飾られ、市民参加による幻想的な「キャンドルナイト」が実現。「水辺の光コンサート」や、大岡川で繰り広げられた灯りをともしたカヌーと和太鼓の共演「カヌーは躍る」では、光と動きと音が調和する。町内会によるカフェも登場し、地域の人々が協力して街の魅力を引き出し、それらを共有することで地域を改めて見つめる機会となった。

## 【イベント概要】

会期：2011/12/17(土)～18(日)

会場：蒔田公園、親水広場「ふれあいアクアパーク」、大岡川流域、フォーラム南太田、吉野町市民プラザ

来場者数：5,500名

参加アーティスト：中村敬(アートディレクター) [市民参加アート] 共進中学校美術部、蒔田中学校美術部、匠(切り絵)、日枝小学校4年1組、町内会子供会、南まつり、Y校文化祭などのワークショップ参加者 [コンサート] 日枝小放課後キッズクラブ、日枝小学校4年1組、蒔田中学校吹奏楽部、ブリーズ、ジェリクルーY、井上亜美、NDB 26、TIDE、スプーン&フォーク、邦楽ブルーライン南、H-Kid's dance Yokohama、共進中学校吹奏楽部、和太鼓 撥當、Hot club de Yokohama、ビッグバンド NAZCA [カヌー演舞] 横浜市カヌー協会、和太鼓撥當 [ロビーコンサート] ジェリクルーY ほか

プレイベント：7/30(土)～7/31(日)「南まつり」参加 蒔田公園  
10/29(土) 10/30(日)「南区文化祭 写真展示&ワークショップ」南センター  
11/5(土)、11/6(日)「回り灯籠制作ワークショップ」横浜商業高校  
11～12月「中学校美術部WS・小学校ダンスWS」吉野町市民プラザ  
10～11月「こども会・回り灯籠制作ワークショップ」宮宿花町内会館 ほか

イベント：12/17(土)、18(日)

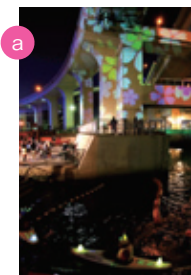
「光の回廊」|「首都高橋桁ライトアップ」|「キャンドルナイト」|「回り灯籠」  
「ほっとHotカフェ」|「水辺の光コンサート」|「カヌーは躍る」|「ロビーコンサート」ほか

## comment

大岡川アートプロジェクト実行委員会  
アートディレクター 中村敬

今年の企画のテーマは「川が呼ぶ 光が創るムーヴメント」でした。川をもう一度見直し、「光」と「動き」を結びつけたいと考えました。横浜市カヌー協会との連携による川面のアート、アーティストによる「動く光」の美しさ、参加する人々による「光の動き」、「映像」の面白さなどを企画に取り入れることを模索しました。私たちは川を介した様々な交流が、大きなムーヴメントとなることを期待しました。その後3月の大震災を受け、このイベントの中で人々は復興への願いを様々な場面で表現します。希望を表す「さくらツリー」、小学生の地域とのつながりをテーマにした作品、飛び入りの高校生が「繋がり」と「絆」という文字をキャンドルで描いたことなどです。「光と影」そして地球をイメージしたチラシも、暗闇の中にこそ美しく映える光を見ていただきたいとの願いからデザインされたものです。節電の厳しい現実の中、光輝くイルミネーションでは無く、日本人の心そして和の美を忘れずにとの想いから進めてきた「アート」の取り組み。それが地域に受け容れられ、人々が交流を持つことができたことを嬉しく思います。

## photo

a: 横浜みなとマリライオンズクラブ賞「光の祭典」© 大澤 勇  
b: 実行委員長賞「キャンドルに想いを寄せて」© 中谷 勇

主催：大岡川アートプロジェクト実行委員会  
後援：横浜市文化観光局、南区役所、神奈川新聞社、tvk、FMヨコハマ、横浜市ケーブルテレビ協議会  
協賛：社団法人神奈川県地建物取引業協会、横浜みなとマリライオンズクラブ、三徳エステート株式会社、株式会社山武、横浜建物管理協同組合、鹿島・五洋・松尾建設共同事業体、他  
広報協力：横浜市交通局、株式会社タウンニュース社、他  
協力：蒔田地区連合町内会、お三の宮地区連合町内会、南太田1丁目第1・第2・第3・第4町内会、吉野町町内会、清水ヶ丘第1町内会、蒔田公園愛護会、横浜市立横浜商業高等学校、横浜市立蒔田中学校、横浜市立共進中学校、横浜市立日枝小学校、男女共同参画センター横浜南、横浜市吉野町市民プラザ、他

問合せ：大岡川アートプロジェクト実行委員会  
Tel 070-5557-9924 (杉山)  
URL <http://ohokagawaart.blog45.fc2.com>

## ともだちの丘えんげきまつり

## ともだちの丘えんげきぶ

## 10

## comment

## ともだちの丘えんげきぶ

部長 今井尋也

「ともだちの丘えんげきぶ」は、演劇部の部員たちがいかに、イキイキと身体表現を楽しむことができるかを皆で考え、試行錯誤してきました。そこで今年度は特に北原白秋の詩をクローズアップしました。詩から生まれる音とそこから生まれる体の動きを発見したり、掘り下げたりする活動を繰り返し行いました。部員たちは、言語に対する感覚も様々なレベルがありますが、白秋の詩へのアプローチをそれぞれ楽しむことができました。また新しい活動として、ピアノやギター、パーカッション等を利用して、日本の古典音楽やポップスなどの音楽性を取り込み、作曲したり、歌ったり、その音楽を元に踊ったりと、言葉に頼らない身体表現を楽しむことができました。今後の抱負は身体表現のポテンシャルをさらに引き出せるように、美術の要素を加えたいと考えています。そうして演劇と福祉をさらに充実させて融合させたいです。更に地域に開かれた活動とすべく、横浜アートサイトの他の活動団体との連携を図りたいです。

## photo



a: えんげきまつり  
b: 港北区障害者地域活動ホーム



ともだちの丘えんげきぶ えんげきまつり

施設利用者の自己表現やコミュニケーションに大きな影響を与えた「えんげきぶ」の演劇活動。10年間障がい者と演劇ファシリテーターが向き合って作り上げた活動の集大成として、新たな要素を加え、舞台公演として地域へ披露した。舞台は、北原白秋の詩をもとに、言葉の音律やリズム、そこから生まれる身体の動きで構成。ワークショップでは、その時々の参加者の心や体の状況にあわせて、ヨガや歌、動物の物まねや、詩を読むなど、障がい者と健常者という垣根を取り払い即興的に交じり合った。知的障がいのある方々が社会と繋がっていく上で必要な自己の表現を演劇を通して培い、彼らとともに表現することでいわゆる「健常者」も自己と向き合う貴重な機会となる。障がいのあるなしに関わらず参加できるこの舞台、あらゆる枠組みを超えて、心の奥に「忘れたもの」を問いかけた。

## 【イベント概要】

会期：2011/12/22(木)・23(金) (演劇ワークショップは通年実施、月3回・全36回)

会場：港北区障害者地域活動ホーム ともだちの丘 特設ステージ

来場者数：ワークショップ参加者／36名、プレ公演／48名、本公演／156名

参加アーティスト：ともだちの丘えんげきぶいん、今井尋也、吉松章、小池けんちゃん、  
桜井真樹子、武中千恵、メガロシアター ほか

イベント：12/22(木)「ともだちの丘えんげきぶ えんげきまつり」プレ公演

12/23(金)「ともだちの丘えんげきぶ えんげきまつり」本公演

港北区障害者地域活動ホーム ともだちの丘 特設ステージ

主催：ともだちの丘えんげきぶ  
共催：NPO法人ともだちの丘  
協賛：大倉山商店街振興組合  
協力：港北区作業所連絡会、横浜市活動ホーム連絡会、港北区社会福祉協議会

問合せ：NPO法人ともだちの丘  
Email friend@megalo.biz  
URL <http://www.megalo.biz>

# 11

## こどもの創造性をアートでつなぐ コミュニティ・ミュージックプロジェクト 2011 よこはま音楽広場実行委員会



医療的ケアが必要な子どもたちが、彼らを取り囲む人々と主体的で対等なコミュニケーションを深められるよう、音楽や絵画を媒介とした活動を行う。今回、病院を一つのコミュニティとして捉え、子どもたちが主体的に参加できる自分たちのコミュニティを作ることを目指した。神奈川県立こども医療センターで、入院児童を対象に9回の連続ワークショップを開催。肢体不自由児施設、併設の横浜南養護学校、こども医療センター待合の三カ所で展開する。即興劇、歌作り、打楽器演奏を通して、自分たちが主役になり、自己表現する楽しみを共有した。少人数だった活動も、最後は待合ホールで100名以上の参加者と共に大合奏や合唱を披露するまでに。主体的な活動が、彼らの自我の発育に肯定的な影響を及ぼしただけでなく、治療により束縛されることの多い入院生活の場「病院」を、にぎやかな「自分たちの居場所」へと変容させていた。

### 【イベント概要】

会期：2011/6/9（木）～12/1（木）

会場：神奈川県立こども医療センター（横浜南養護学校、肢体不自由児施設、待合ホール）

来場者数：養護学校・肢体不自由児施設／各回10～15名、病院待合／各回30名以上、音遊びフェスティバル／100名以上

参加アーティスト：洗足学園音楽大学音楽療法コース（羽田喜子、高田由利子、藤井紀子、田中めぐみ、北林千佳、三道ひかり、高橋亜沙子、田中瞳、根岸良太、百合野日登美）、肢体不自由児施設の子ども達と保育士、南養護学校中学部の生徒と教員、ボランティア有志（老川智子、加藤登紀子）、イシワタマリ

イベント：6/9（木）、6/23（木）、7/14（木）、9/22（木）「音遊びワークショップ」

こども医療センター（横浜南養護学校中学部、肢体不自由児施設、待合ホール）

10/13（木）「アート体験ワークショップ」

こども医療センター（横浜南養護学校中学部、肢体不自由児施設、待合ホール）

10/27（木）、11/10（木）、11/24（木）「音遊びワークショップ」

こども医療センター（横浜南養護学校中学部、肢体不自由児施設、待合ホール）

12/1（木）

「音遊びワークショップ」こども医療センター（横浜南養護学校中学部）

「音遊びフェスティバル」こども医療センター待合ホール

### comment

よこはま音楽広場実行委員会  
代表 高田由利子

患者さんが主体的になれるコミュニティを作りたいという発想で、こども医療センターに入院する子どもたちを対象に活動を展開してまいりました。子どもたちが音楽や絵画に触れた瞬間、彼らの表現力やユーモアは輝くばかりに溢れ出し、伸びやかな自己表現や仲間とアイデアを共有し合う姿がたくさん見られました。毎回、アフリカの打楽器や心地よい響きの金属楽器などを使用しましたが、一人一人の楽器からさまざまな音が生産される時、そこには色とりどりのコミュニケーションが広がり、次第に深まりをみせていきました。一人一人が自分の居場所を見つけながら、仲間の居場所も認め合うプロセスは、私たちが現代社会で見失いつつあるコミュニティ観への再認識にも繋がります。病院という既存のコミュニティに新たなコミュニティを創出することの意味は、みんなが主体的に協働して創ったという事象の中に価値が見出せると感じております。

### photo



a: イワタマリ ワークショップ

b: 音遊びフェスティバル

主催：よこはま音楽広場実行委員会  
後援：洗足学園音楽大学音楽療法研究所

問合せ先：よこはま音楽広場実行委員会  
Tel 090-6193-6041  
Email yuri0375@aol.com

## シンポジウム

## 「横浜アートサイト 2011 報告会」より

【第1部】横浜アートサイト 2011 参加団体プレゼンテーション

【第2部】ディスカッション

日時：2012年1月28日(土) 14時～17時

会場：ヨコハマ創造都市センター 3F スペース

参加者数：約80名

ゲスト：大澤寅雄（ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室研究員）

プロフィール：1970年生まれ。1994年、慶應義塾大学文学部卒業。現在、(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室研究員。玉川大学、跡見学園女子大学の非常勤講師。NPO法人アートNPOリンクの事務局。NPO法人STスポット横浜の監事。



## 第2部：ディスカッション「で、何を变えたいの？何が变ったの？」

## 継続し、発展させていくための事業評価

**大澤寅雄**：何のために「事業評価」をするのか、という話を初めにしたいと思います。事業がより効果的に実施できるようにするには、お金や人、場所や道具など限られた資源を適切に配分する必要があります。つまり、助成プログラム全体や、助成を受けた個別の事業をどう続けていけるか、より発展できるかどうか、ということを知るために、評価が必要なのですね。これが事業評価です。

## —評価される4つの視点—

では何が評価されるのでしょうか。4つの視点で見てみましょう。

## ①インプット（投入）

その活動に、どのくらいのお金／人／時間／場所などを投入するのか？ということ。予算や組織体制、実施期間や会場などですね。

## ②アウトプット（結果）

投入したものに対して、どんな結果が生まれるのか。入場者数や収支状況だけでなく、新たに何が生まれ出されるのか。作品やイベントなど行為そのものもアウトプットです。

## ③アウトカム（効果）

その活動がなにを目的としているのか、何が期待できるのか。例えば、作品や活動が芸術的な面でどんな評価を見いだす・見いだされるのか、新しい表現手法をどのように模索しているのだろうかとか。観客や参加者層の変化や拡大も評価になります。

## ④インパクト（波及効果）

長い目で見たとき、その活動が世の中にどんな影響を与えるのか。例えば、ある芸術表現を境にそれ以降の芸術の概念が変わったとか。私はここに住んでよかったと思う誇り、シビックプライドや、その地名を言えば信頼されるようになったという地域ブランドもそうですね。また、住み続ける人・訪れる人が増えたとか、例えば障がい者や在住外国人などを排除しないで一緒に支え合う地域をつくらうというソーシャル・インクルージョンや経済波及効果もインパクトと言えます。

## —評価は、アウトカムを共有することが重要—

ではこれらの評価をどう受け止めればいいのか。僕は、評価は、するとか、される、というものではなく、申請者と支援者の両方で成果や出来事をお互いに共有し確認するものではないかと思っています。申請者側は、作品制作やイベントの実施結果、つまりアウトプットに注目し、おそらく

インパクトなど知ったこっちゃないでしょう。一方、支援する側は、どんなインパクトを地域に及ぼしてくれているか、ということを見る。ですが、支援する側は、たとえ小さな活動であったとしても、そのアウトカムを出すのであれば必然だ、ということを理解すべきで、それを申請者と共有する。そうすると申請者側も、支援者が期待するインパクトはこういうことかなと理解するんですね。両方で共有することが大事なんです。

## —横浜アートサイトが求めるアウトカムってなぁに？—

では、横浜アートサイトが求めるアウトカムはなんでしょう。一つ目は、地域資源を生かし地域の魅力を発見し楽しむこと、二つ目は、アートの方で人と人をつなごうということ、三つ目は、アートを通じてコミュニティの活性化を目指そうということ、と考えます。

## —参加団体のアウトカムを見てみよう—

## 1. 地域資源を生かし地域の魅力を発見し楽しむ

## 《大岡川アートプロジェクト実行委員会》

**大澤**：川を作品の素材として感じている、あるいは、川に市民の目を向けさせたいという意図があるのかなと感じたのですけれども。

**中村敬**：初めてこれが大岡川ですって見せられたとき、僕にとっての川のイメージと全く違ったんですね、緑色をした運河だった。地域の歴史を調べるうちに、ひょっとしたら行燈などを転々と置いていくといいのかもしれないと考えました。ですが、まちの人はいつも見慣れているから最初はそれがどうということかわからなかったと思うんですね。でも回を重ねると、作品がシンボルやアイコンとなって機能するようになる。そうして活動が広がってきたのかなと。

**大澤**：地域の人たちにとってあまりにも当たり前で、見慣れた川の風景。それをアーティストが、特別な地域資源なのだと再発見してくれた、という気がします。

**中村**：首都高速の橋桁もそうですね。重苦しい橋桁を誰もきれいだと思わない。でもひょっとしたら、とライトアップをスタートした。光は、光が当たる物の見えない部分を引き出します。光の作品を置くことで、地域の見えない魅力が見えてくるのではないかと考えていました。

## 《GROUP 創造と森の声》

**大澤**：どんな風に森を地域資源として発見できたのですか？

**石山克幸**：18年ぐらい前にあの森を見たとき、荒れた森だと思いました。森といっても原生林ではなく、農業との関係があった里山だったのだろうと。不法投棄のゴミが散在していましたが、整備が進むでもない。





そこで我々は美術展をやりたいと、行政からその場所を貸りました。美術展をやるために道を作るなど手入れをしたのですが、人が関わると森が変わるんですね。森がずいぶん明るくなった。農業と関わりがあった森を取り戻すことは無理だけど、新しい森とのかかわりとして、アートがすごく力をもつんだなと思いました。それを地域の人巻き込んでやることで、地域へ影響を与えていくのだろうと。

**大澤**：普段は行かない夜の森を使ったのも、おもしろいですね。

**石山**：都会の中で、本当に真っ暗な夜は森の中にあるんです。それを生かして、夜光塗料を使った作品も展示しました。

#### 《都筑アートプロジェクト実行委員会》

**大澤**：地域住民の力や関係性そのものが非常に大きな地域資源なのかなと思うのと、民家園を使ったということ、いかがでしょうか。

**今井紀彰**：民家園の人たちと運営をしていますが、みんな他の活動と並行してやっているの、なかなか大変なこともありました。そんな中、地域の人たちがすごく協力的で、地域の住民パワー、支え合うパワーをととても感じました。民家園は森に囲まれていて、外から見るととてもわかりにくい場所にあります。歴史博物館も道路から見えない。知らないとも一度も行かない場所だけれど、一回知ってしまえばすごく気持ちいい場所で何度も訪れてしまうようなところ。まわりが新興住宅街なんです、実はあそこ全体が遺跡銀山と呼ばれていて、昔の考古学者たちは皆若いころあそこで発掘していた。外の人たちはそれを知っているけれど、そこに住む新しい世代は知らない。そういう地域の魅力を大事にしていきたいと思っています。

#### 《AOBA+ART2011 実行委員会》

**大澤**：AOBA+ART も新興住宅街ですね。住民や企業、団体との関係に相当助けられたとのことですが、いかがですか？

**野見山桜**：新興住宅街に、何か特別な特徴あるものをつくろうというのと非常に難しいのですが、逆にまちをつくろうとしている人たちと一緒に取り組むことが新しく価値を作り出すことだと私たちは考えています。

**大澤**：目に見えるような地域資源ではなく、住宅街そのもの、見慣れた風景を切り取って作品化することで、何かまなざしが変わるというような感じがしましたが。

**野見山**：いつも見慣れているものは実は貴重なものだったりするんですね。昨年の大震災を経て、普通に過ごすことはとても大切で、そのことにすごく感謝すべきなんだということを話し合いました。どこにでもある風景、自分が住んでいる場所が価値になりうる、ただそれには見方を変えてあげることが必要で、AOBA+ART はそれを提案する立場なのかなと考えています。

**大澤**：物の見方やまなざしそのものを変えるということが、地域と関わるアートのひとつの大きな潮流になっているような気がしますね。

#### 《金沢文庫芸術祭実行委員会》

**大澤**：地域資源は海ですね。

**浅葉弾**：実は、最初の会場は寺院でした。でも大規模なイベントをやるのが難しくなり、5回目は八景島の商業施設、6回目から現在の海の公園に会場を移しました。地元の特性を生かすということは常に意

識しています。

**大澤**：自然そのものとして捉える海や森、川ではなくて、都市の中の自然、ということがみなさんの活動に素直に現れていますよね。横浜の自然は、やはり人とのかかわりの中にある。それをちゃんと地域資源として生かされていると思います。

## 2. アートの力で人と人をつなごう

### 《さかえ de つながるアート》

**大澤**：地域の人々をアートのちからで繋いだ、ということですが。

**松本光世**：アートで人をむりやりつなげよう、ということではないんですね。おもしろくなってきた人と人が、いつの間にかアートのちからで繋がってしまった、という気がしています。

**大澤**：どんな出会いが一番面白かったですか？

**松本**：赤ちゃんとお年寄りがアートの場面ではなんの上下関係もなくつなごったり、例えば、世間で大きな仕事をしている人と、地域の片隅でさりげなく生きている人とが、同じ作品でアツとびっくりしたりする。誰もが一緒になってニコッと笑ったりする場面を何度も見ました。立派な説明では伝わらないことも、ただ作品を前にただでこうなる、ということがすごいなと思いました。

### 《旭区地域生活支援拠点 ほっとぽっと》

**大澤**：先ほど和田さんが「いささか福祉に飽きてきた」とおっしゃいました。ほっとぽっとさんの取り組みは、これはもう、アートですよね。「夢よ叫べ展」の作品の言葉にガツンとききました。

**和田公一**：ありがとうございます。何と言いますか、生きていて一番つらい状況というのはなんだと思いますか？…「孤立」なんですね。人が自ら命を絶つ理由として一番大きなものは孤立なんです。孤立は人間にとって危険なんですね。生の根源的なもので、ひとりじゃ生きられないということを精神障がいがある人はすごくよくわかっている。そこを、人をつないでいくアートだと大澤さんが解釈してくださった。

**大澤**：アートとして素晴らしいと感じました。これからも期待しています。

### 《ともだちの丘えんげきぶ》

**大澤**：健常者と障がいの者の表現活動という中で、健常者がそれをどう感じるかということについて、お話しいただけますか。

**今井尋也**：僕は、健常者と健常者ではない人の区別がよくわからないのです。いったいその区別は何が決めるのか？と。で、それこそが演劇なんですね。規制の枠組みや、ある種の概念とか、そういうものをもう一度見つめ直す強烈な機会になっている。演劇は、それこそ肌が触れ合ったり、声と一緒に響いたり、人と人がダイレクトにやっっていく作業です。そうするうちに、区別なんてないんだということその現場にいる人自身が理解をしていった。たまたまそこにいる人が、そのパワーを感じるだけだと思うんです。アートが人と人とのつながりを作るのではなく、人と人の繋がりがある場所にしかアートは生まれない。地域のボランティアの人の情熱、演劇が本来もつ力を信じる僕たちの気持ち、そして、利用者さんが純粹に持っている人間としての魅力、その3つのエネルギーが繋がった時にはじめて結果的にアートを生み出して



いる、ということです。

**大澤**:つまりこれは福祉だけでは出来ないことなんですよ。ほととぼとさんもそうですが、福祉としてではなく、真っ正面からアートに取り組んでいる。そこを支援しているというのは、横浜アートサイトの先鋭的なところだと思いました。

#### 《よこはま音楽広場実行委員会》

**大澤**:病院の中での、人と人のつながりはどうでしたか？

**高田由利子**:病院というのは、部門ごとの縦割りで横の繋がりがありませんね。活動した病院ではボランティア団体が40以上ありますが、団体同士のつながりもほとんどない。これをなんとかしたいと思い、他のボランティア団体さんと一緒に活動したり、病院の他部門に活動を知らせるべく、院内のニュースレターに載せていただいたりしました。

### 3. アートを通じてコミュニティの活性化を図る

#### 《金沢文庫芸術祭実行委員会》

**大澤**:活動報告に「この芸術祭からアーティストが育っていく、そんな場を目指したいとありました。これは面白いので、ぜひやってほしいです。

**浅葉**:実際に、子どもの頃から参加してアーティストを目指している人もいます。ここを通ることによってそれが将来なにかに役に立つ、結果的にアートということできたらさらにいいなあと思います。

**大澤**:13年続けてきて、次の世代が育ってきたという感じはありますか？

**浅葉**:ありますね。ただ、育て方も課題のひとつです。優秀なスタッフや仲間を、先のことを考えどうやって繋いでいくか、持続可能なスタッフづくりも毎回の課題です。

**大澤**:持続していく活動じゃないとそれがコミュニティには根ざさないわけですが、長くやればやる程またそこが難しくなっていくと。各団体共通の課題なのでしょう。他に、実現できたことはありますか？

**浅葉**:子どもをテーマに活動していますが、小学校や幼稚園との関わりが十数校に広がりました。学校での展開を芸術祭につなげていこうかと。

**大澤**:コミュニティの活性を目指すには、これからの地域を支え、人をつなげる子どもの存在は大事ですね。

#### 《寿オルタナティブ・ネットワーク》

**大澤**:寿町はユニークな街ですが、その中でもアーティストを含めていろんな人が関わりをもつようになったのはすごいと思いました。

**橋本誠**:寿のコミュニティは、捉えどころがないものだと思います。強いて地域住人について言えば、高齢で生活保護を受けて暮らしているような方が多く、基本的にみなさん孤立されている。また、ちょっとしたイベントや、ボランティアによる支援活動こそありますが、常に受け身で、地域外からいらした方とも交じり合うことがあまりなかったのかなと感じています。それを活性化という観点で考えるとき、生活の場でするので、イベントに参加した方が変に誤解だけ得て帰るとか、そこに生きている人がいづらくなる状況をつくるのは違うと思っています。だから、人数など数字の面はほどほどでよいとして、寿灯祭では、アーティストが仕掛けるだけではなく、地域の方が主体的に関われるかたちを目指しています。ここへ来て何かをやりたいという人ともちつもたれつ

関係をつくれたら良いかと。いろんな出会いや協働する機会を増やすことで、住民、アーティスト、スタッフなど、それぞれの立場や役割、活動のスタイルに多様性を生み出すようなことにつながると面白いなあと思っています。このお祭りをつくる人のモチベーションを活性化したいというか。そんなことを考えています。

#### 《AfricArt design》

**大澤**:ミクロなところで行われた活性化、いかがでしたか。

**イシワタマリ**:活動拠点はちょっと不便で過疎化・高齢化した住宅街の一般邸宅なのですが、そこへ市内他地域や県外・海外からも人が訪れる状況が生まれた。集まるのは若者中心ではありますが、特定のネットワークに寄らず多様です。その状況を少しずつ隣近所へ説明しつつ、作品制作に使うペットボトルを集めるのに協力してもらったり、作品を機に人がまた訪れたりという小さな交流が生まれました。

**黒木皇**:たとえば旅は、様々な人々の間や、場所と場所を行き来し、出会うことのなかった人たちが出会って新しいつながりを生むものだと思います。同様に、僕たちが行き来することで新しいつながりができること、それ自体がコミュニティをつくるということかな、と考えています。

**大澤**:本当に実験的ですが、確実に新しいコミュニティのモデルを提示していますね。

#### 《よこはま音楽広場実行委員会》

**大澤**:コミュニティは必ずしも土地に根ざしたものだけではなくて、ある特定の属性の人たちが共有している場や時間もそうだと思います。「病院の中に新しいコミュニティを創出することの意味は、みんなが主体的に協働して創ったという事象の中に価値が見い出せる」とありましたが、それはどんなことなのでしょう。

**高田**:活動を通して、既存のコミュニティに新たなコミュニティをつくるということは、帰属感を持たせることにつながるのかなと思いました。自分の居場所を見いだせるとか、自分がそこに居て価値がある、そのコミュニティに対して自分が何かを還元できていると感じたときに、子どもやボランティアに主体性をもった関わりが生まれてきました。それぞれの潜在的な主体性が引き出され、主体的な関わりがコミュニティの中に生まれること、それを価値と捉えました。

**大澤**:例えば「市民」と言ったときに、横浜市民としてひとりひとりが主体的に協働しているか。主体的な関わりが「コミュニティ」だとすると、私たちは本当にコミュニティの一員なんだろうか？と考えさせられる言葉だなあと思って、最後に紹介させていただきました。

#### おわりに

**大澤**:僕は、力のあるアートは、必ず何かを変えたいと思います。なので、これからもみなさんの活動を是非続けていきたいです。そのときに、あなたはアートで何を変えたいのか？あなたのまちでは何が変わってきたのか？あなた自身何が変わったのか？ということを考えることで、横浜アートサイトが続いていくことになるし、みんながハッピーになることにつながっていくのではないかと思います。



発行日：2012年3月20日

デザイン：野本あやこ

編集・発行：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 協働推進グループ

横浜市「文化芸術による地域づくり事業」

〒231-8315 横浜市中区本町 6-50-1 ヨコハマ創造都市センター内

Tel 045-221-0325 Fax 045-221-0215 Email [artsite@yaf.or.jp](mailto:artsite@yaf.or.jp)

